

「ほっぷ すてっぷ フォローアップキャンプ」

平成 30 年 1 月 20 日（土）～1 月 21 日（日） 1 泊 2 日

○目的

子供たちが、日常の中では体験しがたい活動にチャレンジするとともに、集団宿泊生活を通じて、規則正しい生活習慣の大切さや相互に協力し合うことの意義などを学ぶ「子供たちが将来に向けて踏み出す一歩」を応援するフォローアップキャンプを実施する。

子供たちは、昨年度「ほっぷ すてっぷ キャンプ（メインキャンプ）」を実施し、「早寝早起朝ごはん」を基本とした当所での生活を体験した。フォローアップキャンプでは、基本的な生活習慣が定着していることを確認し、改めて日常の生活習慣を見つめ直す機会とする。

○参加者

近隣の児童養護施設の幼児、児童、生徒 計 20 名

○事業の内容

（1）中学生による「はじめの会」の運営

進行役を予定していた高校生が欠席となり、入所した際に子供たちに声を掛けたところ、急な依頼にも関わらず、中学生男女 1 名ずつが挙手してくれた。積極的に取り組む姿は、キャンプのねらいの 1 つである「チャレンジ」そのもので、全体の場で称賛した。

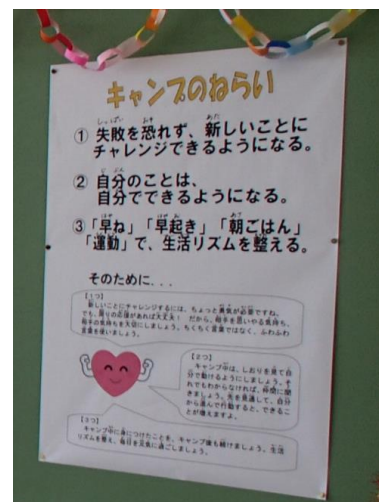
（2）凧作りにチャレンジ

幼児は引率の施設職員と一緒に作り、小学生以上は自分で凧作りにチャレンジした。交流の家職員の話をしっかりと聞きながら、できるだけ自分の力で作ることを目標にした。天候にも恵まれ、完成した後は外に出て凧揚げを楽しんだ。自分で作った凧が空高く揚がると、子供たちは大喜びし、笑顔が広がった。次に予定していたプログラムを変更して、そのまま凧揚げを楽しんだ。



（3）「つどい」への参加

「夕べのつどい」、「朝のつどい」に参加し、規律ある共同生活を送ることを意識した。また、「夕べのつどい」での団体紹介、「朝のつどい」での退所の挨拶も代表の子供が行い、大勢の人前でしっかりと話すことにチャレンジした。宿泊団体相互の交流も図ることができた。



(4) 「早寝早起き朝ごはん」を通しての生活習慣の見直し

キャンプ中は「21時就寝、6時起床、7時20分朝食」の生活をし、「早寝早起き朝ごはん」の実践を通して、生活習慣を見直すきっかけとした。また、幼児には「にこにこげんきのおまじない」、小学生には「小学生のための早ね早起き朝ごはんガイド」、中学生・高校生には「早寝早起き朝ごはんで輝く君の未来」をそれぞれ配付し、キャンプ後も「早寝早起き朝ごはん」を意識できるようにした。



(5) 高校生企画のスポーツ大会

高校生が下級生をサポートしながら関わることを期待し、昨年度のメインキャンプ同様、高校生による企画・運営のスポーツ大会を行った。チーム編成や、整列、ルール説明等、高校生がリーダーシップを発揮し、輝いている姿を見ることができた。リレーもサッカーも、男女混合・職員児童生徒混合で2チームに分かれ、和やかな雰囲気の中にも真剣勝負が繰り広げられた。特に高校生の全力プレーは、下級生の憧れとなっていた。



(6) 高校生による「終わりの会」の運営

「終わりの会」は計画通り高校生が進行役となった。単なる司会ではなく、「キャンプで学んだことを今後の生活に活かそう。」と全体に呼びかけ、子供たちでキャンプのまとめができていた。また、キャンプのねらいを意識し、感想発表など、なるべく子供の順番を多く設定した。子供たちが自分の言葉で人前で話す経験を重ねることや、交流の家の職員がキャンプ中の子供たちの良い表れを伝えることで、子供たちが自信をもてるようにした。

《参加者の感想》

- あいさつがいっぱいできた。(小学生)
- 自分ができるようになるから、またキャンプに来たい。(中学生)
- 挑戦がたくさんあって、生活に役立つことがたくさんあった。例えば、布団をたたむ、部屋をそうじする、整理整頓をするなど、これからの生活に役立つと思う。(高校生)
- 年下の子の面倒をしっかりとみようと、改めて考えられた。(高校生)
- 他団体と交流することで、周りを見て行動することにつながっていたと思います。(職員)

《成果と課題》

- 2回目のキャンプ(フォローアップキャンプ)ということで、ねらいがより明確に意識でき、子供たちにも促すことができた。
- 昨年できなかったことができるようになっていた(朝早く起き、支度ができていた)。昨年のことを覚えていて、より充実したキャンプになった。
- 凧作りや凧揚げ、スポーツ大会に一生懸命取り組み、子供それぞれの成長がみられた。
- 子供(特に幼児や小学生)も施設職員も、機会があれば交流の家の利用を望んでいる。キャンプ以外で、今後も施設との関係が継続するようにしたい。